

平成28年度

目白大学 学修と生活に関するアンケート

# 実施報告

## 実施の背景と目的

目白大学に在籍する学生を対象に、学生の学修や生活に関する実態を把握し、今後の教育や学生支援体制をさらに充実させることを目的とした「学修と生活に関するアンケート」を実施しました。

## 実施の方法

2017年1月～2月に本学に在学する学生を対象に調査を行いました。  
授業などで配布されたURLが書かれた紙から、インターネット上の回答サイトにアクセスし、各自オンラインで回答してもらう形式での調査でした。

## この報告について

平成28年度の在学学生は、約5800名おり、このアンケートには約28%である1616名から回答を得ました。

この報告では、みなさんからの回答の内容やその傾向について説明し、本学として今後取り組む内容についてご紹介します。

この報告についての問合せ先：目白大学教育研究所  
kyouiku@mejiro.ac.jp  
03-5996-3187

**目白大学教育研究所**

Research Institute for Education of Mejiro University

<http://www.mejiro.ac.jp/kyouiku/>

# 1 回答者属性

まずは実際に回答した人の割合について、キャンパス別、性別、学年別に紹介します。

## 1. キャンパス別

**キ**ャンパス別では、新宿CPの学生が1415名で87.6%、岩槻CPの学生が201名で12.4%でした。本学の在籍者比率と照らし合わせると、回答者の割合はやや新宿CPの学生のほうが多い結果でした。

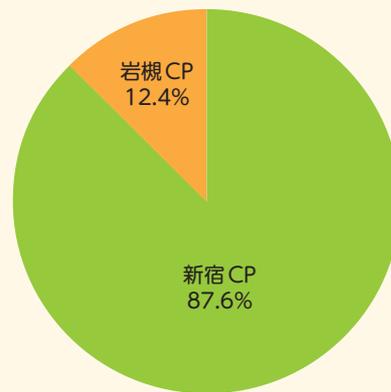


図1 キャンパス別の回答割合

## 2. 学年別

**学**年別では、1年生が671名(41.5%)、2年生が457名(28.2%)、3年生が238名(14.7%)、4年生以上は240名(14.9%)でした。1年生・2年生の回答割合が高いのは、ベーシック・セミナーやキャリア・デザインの授業などで用紙が配布され、学生同士見ながら一緒に回答したケースが多くあったからだと思います。

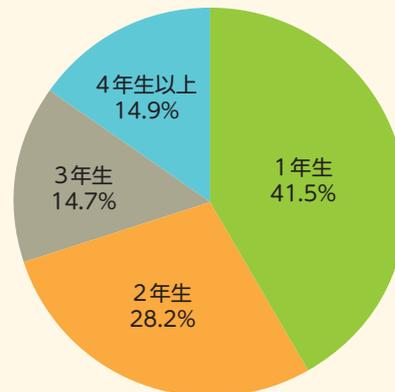


図2 学年別の回答割合

## 2 学生の生活実態

ここでは、学生のみなさんの通学時間、居住形態、アルバイトの状況について紹介し、目白大学の学生の生活実態の傾向について説明します。

### 1. 通学時間

**通**学時間は、新宿キャンパスの学生と岩槻キャンパスの学生とでは傾向がやや異なります。新宿キャンパスの学生は30分未満で通学しているのが8.0%で、10人に1人以下ですが、岩槻キャンパスの学生は23.4%と、4人に1人ほどは30分未満で通学しています。一方、どちらのキャンパスにも共通して、1時間以上かけて通学する学生が2人に1人以上と高い割合になっていました。

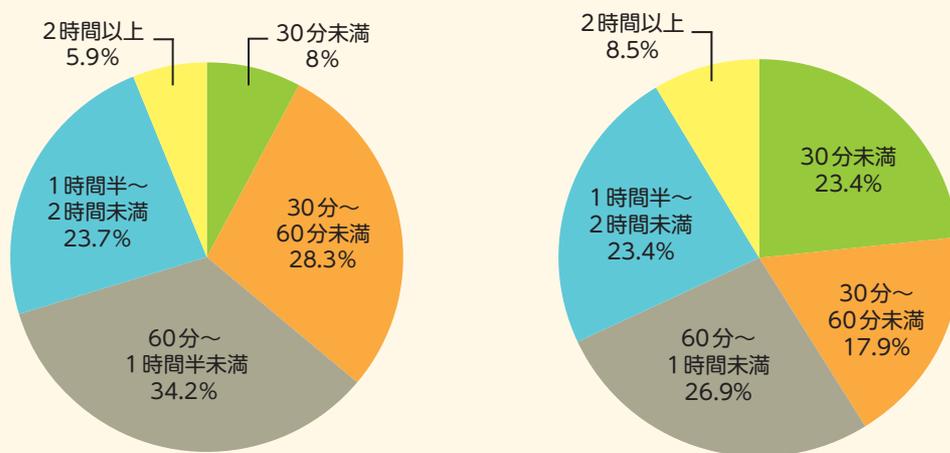


図3 通学時間の状況 (新宿 CP:左 岩槻 CP:右)

## 2. 居住形態

**居** 住形態についても、新宿キャンパスの学生と岩槻キャンパスの学生では傾向が異なります。自宅または親戚宅から通っている学生は、新宿キャンパスでは11.5%と、10人に1人ほどですが、岩槻キャンパスでは26.4%と、4人に1人ほどと多くなります。新宿キャンパスは新宿都心に近く家賃が高い一方、都営大江戸線・西武新宿線中井駅を最寄りとし、交通の便は良いため、やや遠方からでも自宅または親戚宅から通学する学生が多くなる傾向があると考えられます。

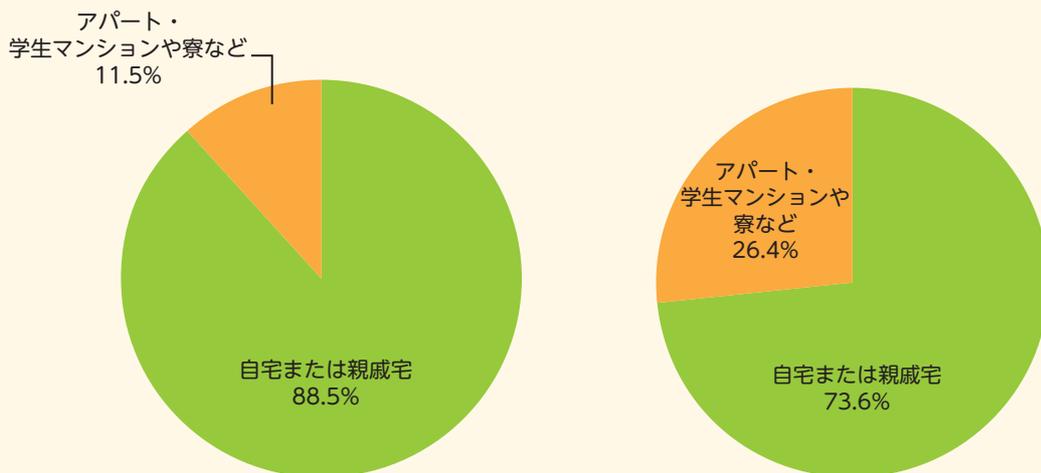


図4 居住形態 (新宿 CP:左 岩槻 CP:右)

## 3. アルバイトの状況

**ア** ルバイトをしている学生は、新宿キャンパスでは84.7%、岩槻キャンパスでは70.1%と傾向に差が有ります。岩槻キャンパスでは長期間にわたる施設実習があることや、4年生のときに受験する国家試験に向けた勉強なども含め、アルバイトをしないている学生も一定割合いるようです。

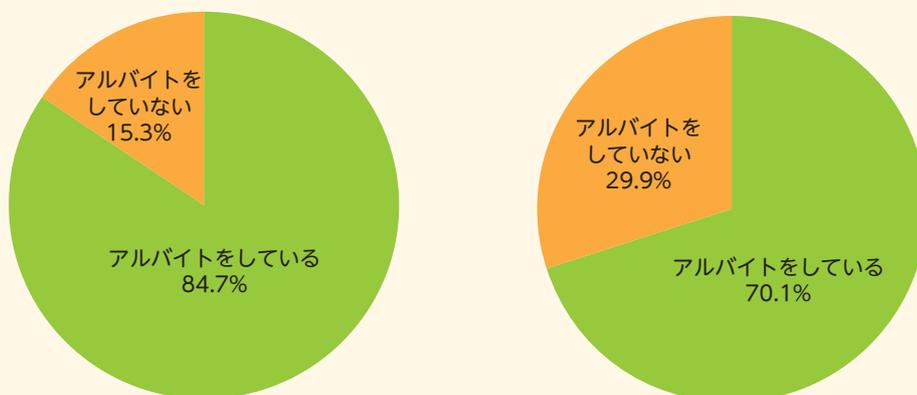


図5 アルバイトの状況 (新宿 CP:左 岩槻 CP:右)

### 3 学習時間

ここでは、「講義科目の学習時間」に焦点をあてて、みなさんの学修実態について説明します。

**文** 部科学省が定めている「大学設置基準」によれば、2単位の講義では90時間の学修が求められています。大学での授業時間を除くと、1つの授業につき毎週、だいたい4時間程度、予復習をした方が良いこととなっています。

グラフは、講義科目の授業時間外での1週間の学修時間です。新宿キャンパスでは「0分」と答えた学生も22%おり、1時間未満と合わせると70%近いです。岩槻キャンパスの学生は新宿キャンパスの学生ほどではないものの、0分、1時間未満と答えた学生が一定割合います。

課題の出し方の工夫やE-learningの充実など、学生のみなさんが授業外の時間にも進んで学修に取り組めるよう、教員も不断に努力を続けていきますが、学生のみなさんもぜひ進んで予復習をしたり、1つの課題により一層時間をかけて取り組んだりしてみてください。また、学内には図書館や、新宿キャンパスでは「まなブース」、岩槻キャンパスでは「Kiri」など、学修ができる環境を整備しています。ぜひ授業の課題や、グループでの学修などに利用してみてください。

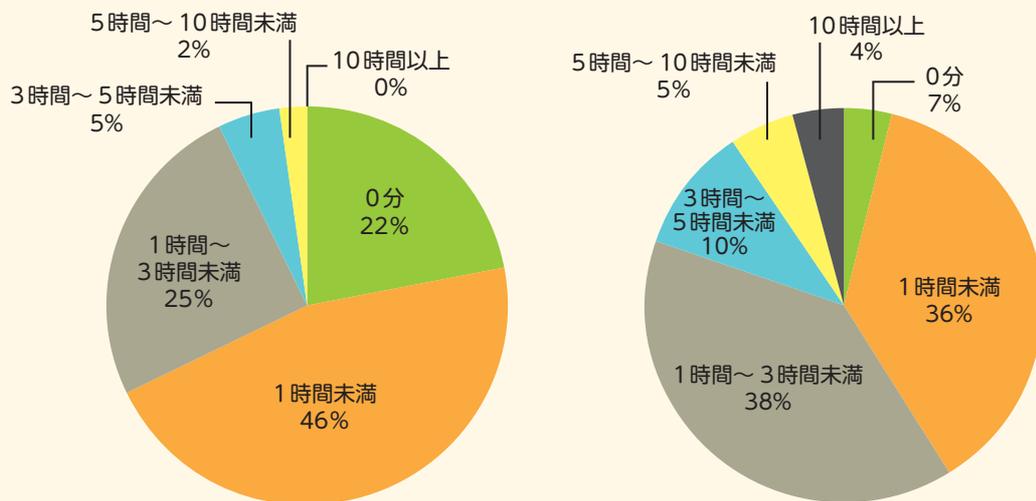


図6 講義科目の学習時間 (新宿 CP : 左 岩槻 CP : 右)

## 4 大学への満足度や期待と希望

ここからは、大学に慣れるために役立ったこと、大学の授業で満足している点、大学の授業への希望・期待、大学生活への満足度について紹介します。

### 1. 大学に慣れるために役立ったこと

入学をして大学に慣れるために役立ったことについて、選択式、該当するものを複数回答してもらう形式で答えてもらいました。その結果、フレッシュマン・セミナーが最も高く、入学直後の合宿研修で、学科の教員や学科の友人らと交流をしたりしながら大学生活について学ぶ機会が、大学に慣れるためにとても役立っている傾向が分かります。本学では、フレッシュマン・セミナーは新入生のみなさんが大学に慣れ、学科の教員と交流したり、友人を幅広く作ったりするための機会となるよう、今後も更に充実を図っていきます。

その他、オリエンテーション、新宿キャンパスでのベーシック・セミナー、岩槻キャンパスでの基礎ゼミや、岩槻キャンパスに関してはスポーツ・フェスティバルも、割合が高い傾向にありました。

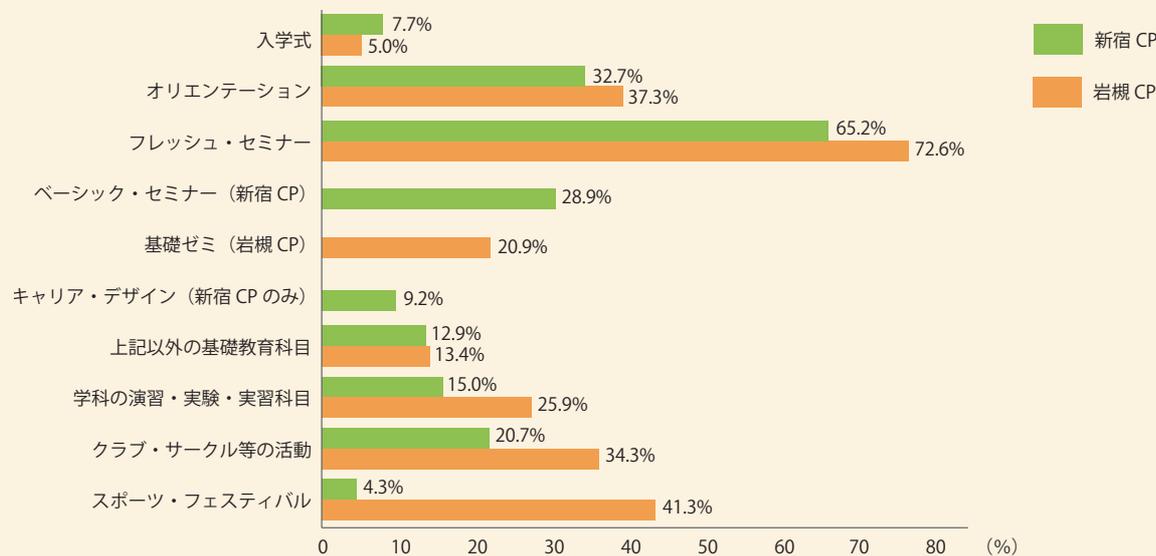


図 11 大学に慣れるために役立ったこと

## 2.大学の授業で満足している点と期待・希望

**大** 学の授業で満足している点についても、選択式、複数回答で答えてもらいました。その結果、「自分の興味や関心に合う授業がある」が最も高く、次いで「実習や体験学習ができる授業がある」、「先生の教え方が上手な授業がある」の順で割合が高い傾向でした。一方で「最新の知識や技術を学べる授業がある」、「先生の熱意が感じられる授業がある」は比較的低い傾向でした。

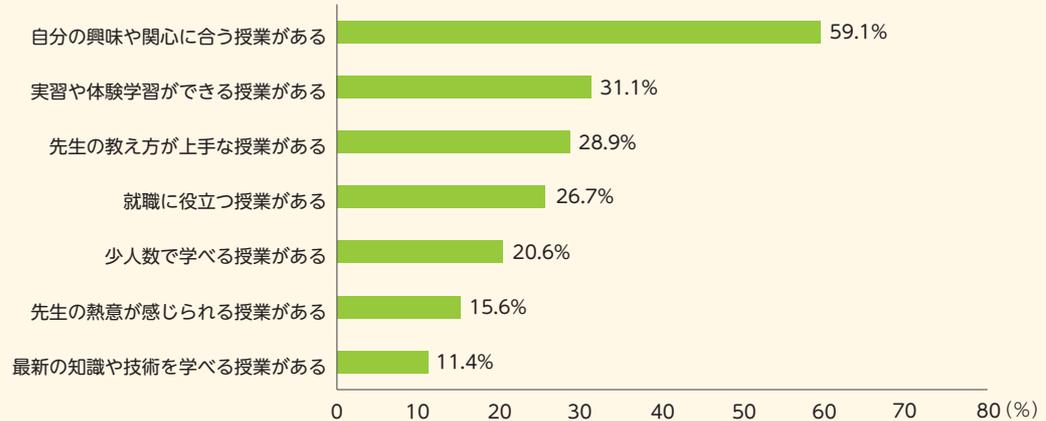


図 12 大学の授業で満足している点

**更** に今回のアンケートでは、大学の授業への期待・希望についても聞いています。その結果ですが、最も高かったのは「学生が興味を持てるような授業をしてほしい」と答えた学生で67.8%に上り、多くの学生にとって興味が持てない授業がある現状が明らかになりました。また、「希望しても受講できない授業を減らしてほしい」、「もっと自由に授業を選択できるようにしてほしい」といった項目の割合も高く、これはカリキュラム上の制約、時間割上の制約などもありますが、本学としてこれから改善のために検討を続けていきます。

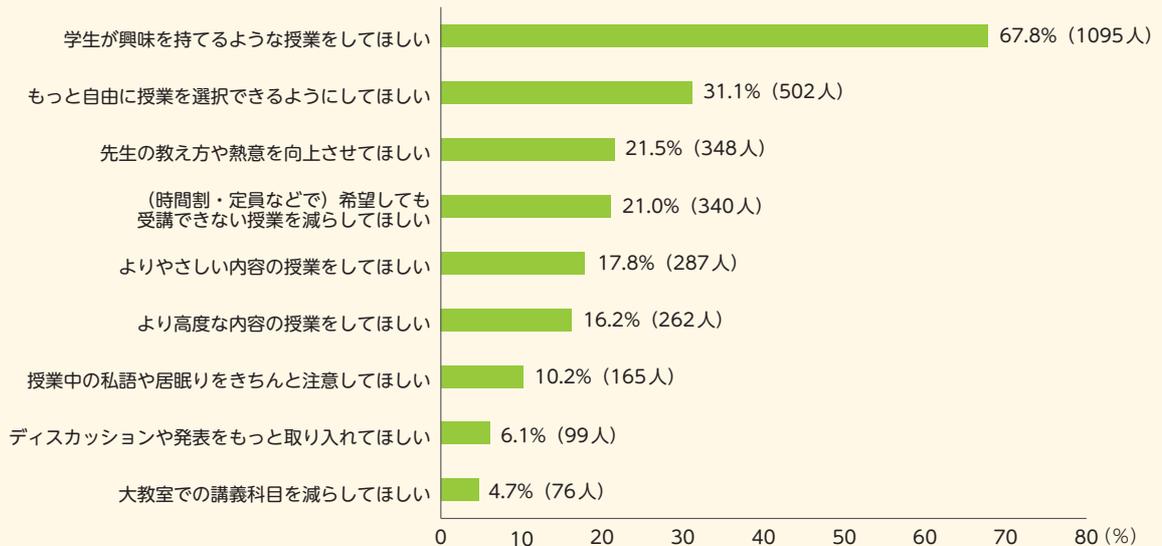


図 13 大学の授業への希望・期待

**本** 学ではこういったアンケートの結果を教員に公表したり、教員の研修（FD：ファカルティ・デベ  
ロップメントといいます）を実施するなどしながら、先生方の授業力を更に高める努力をしていま  
す。今回満足度が高かった項目は更に多くの学生がそう思ってもらえるよう、また満足度が低かったり、希  
望・期待の割合が高かった項目については知恵を絞りながら、より多くの学生のみなさんがより授業に満足  
してもらえるよう工夫していきます。

### 3. 大学生生活への満足度

**大** 学生生活への満足度について、「非常に満足している」～「非常に不満である」の4件法で聞いていま  
す。その結果、「非常に満足している」、「やや満足している」と答えた学生で75%を超える一方、  
残りの25%弱、4人に1人は不満に思っている傾向があるようです。

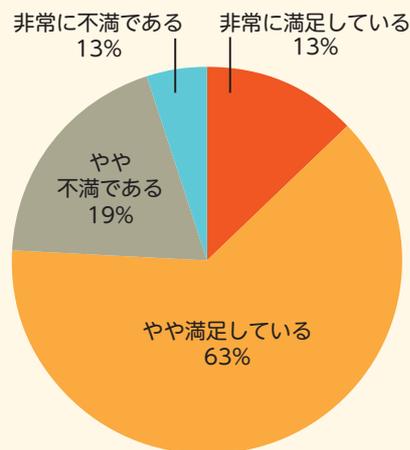


図 14 大学生生活への満足度

このアンケートの結果は、報告書を作成した上で、全教職員が確認できるようにしました。このアンケー  
トから見えた結果や傾向は、早速本学をより良くするための改革や改善のために有効に活用しています。

今後さらにみなさんの学生生活が充実し、また卒業時により満足して卒業していただけるよう、大  
学全体で更に工夫を続けていきます。

今回アンケートに答えてくださった学生のみなさん、ありがとうございました。